

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1 日発行
平成 26 年 12 月号



流通情報

大田市場で千葉県秋冬野菜出陣式を開催しました

県流通販売課
首都圏マーケティングセンター
副主査 大屋敷亮輔

11 月 11 日、青果物の取扱高日本一を誇る東京都中央卸売市場大田市場で、秋冬野菜の本格出荷に向け、千葉県秋冬野菜出陣式を開催しました。展示 P R や県産食材を使った試食で千葉県産青果物の鮮度、品目の多彩さはもちろんのこと、オール千葉での「べにはるか」の取組を多くの買参人に印象付けることが出来ました。

(公社) 県園芸協会、J A 全農ちば、県では、県内から集まった 8 J A と共に、11 月 11 日の早朝、東京都中央卸売市場大田市場にて、これから本格的な出荷を迎える秋冬野菜の出陣式を実施しました。



青果物の展示 P R

今年は、大田市場での販促イベントでは名物となっている千葉県野菜タワーを中心とした展示に加えて、オール千葉体制での取組の一環として行っている「べにはるか」の 30 日貯蔵ルールを来場者に知ってもらうため、焼き芋用に特別に作った袋に入れた「べにはるか」を提供しました。

県産野菜を使用した旬菜スープと「べにはるか」の焼き芋の試食も好評で、特設会場は大いに賑わいました。

(写真は東京青果(株)よりご提供いただきました)



会場一体となつての「エイエイオー！」

恒例となった「出陣式ときの声」では、多くの買参人を前に、県園芸協会の間渕理事長の発声を合図に、会場一体となって「エイエイオー」の三唱を行い、秋冬野菜の出陣を祝いました。

今後とも、県園芸協会を核に、より多くの消費者及び流通関係者に、県産青果物のファンになっていただけるよう、県内産地と一体となって、一層 P R に力を入れてまいります。



べにはるかの 30 日貯蔵ルールも P R

花きの需要拡大を目指す「花育」と植木樹芸技術の伝承の取組

千葉県花き振興地域協議会
事務局 増田 千代子

千葉県花き振興地域協議会では、花きの需要拡大をねらいとして、国の「国産花きイノベーション推進事業」を活用し、「花育」や花き文化の展示等の取組を始めました。

1 法律の成立とイノベーション推進事業

平成 26 年 6 月、花き産業の振興と花き文化の普及を図るため、「花きの振興に関する法律」が成立しました。

この法律により、花き生産者の経営安定、花きの加工流通の高度化、花きの輸出促進、公共施設等での花きの活用等の措置が講じられることとなりました。

その1つとして、花きの生産安定、需要の拡大を推進していくため、平成 26 年度から「国産花きイノベーション推進事業」がスタートし、各都道府県で花き振興の協議会が設立され、様々な取組が実施されています。

2 千葉県での取り組み

本県では、5 月に「千葉県花き振興地域協議会」を設立し、生産、流通、小売、行政が一体となって花き振興に取り組んでいくこととなりました。

平成 26 年度は花きの需要拡大を目指し、子どもの頃から花に親しむ「花育」や本県独自の植木の樹芸技術等を伝承していくため、花き文化の実演・展示などを行っています。

ア 小学校等での花育の実施

本県では、世代ごとの「花育」の推進を検討しており、今年度はモデル的に様々なスタイルの花育を実施しています。

9 月 24 日、柏市立風早南部小学校で、華道家大久保有加氏を講師にガーベラとハランを使った「一花一葉」の生け花の授業を行いました。授業では、生産者も県産花きの紹介を行い、授業を受けた児童は「千葉県で花がたくさん作られていると初めて知った」と驚いていました。

また、10 月 21 日には、千葉市の若竹保育園で、(一社)日本生花通信配達協会千葉支部が講師となり、プランターでの花壇づくり体験を行いました。



生産者も千葉の花を PR

イ 伝統樹芸技術の実演

10 月 25 日、26 日、千葉県植木まつり会場において、植木伝統樹芸士による樹芸技術の実演等を行いました。

会場では見事な樹芸技術の実演に見学者から歓声が上がりました。



伝統樹芸技術の実演に見入る観客

4 今後の計画

千葉県花き振興地域協議会では、各地域において「花育」の取組の定着や、千葉県が誇る植木生産技術の PR など、今年度の活動をさらに発展させて、広く県民に花と植木への理解と利用拡大が一層進むよう取り組んでまいります。



頑張る産地

梨友会^{りゆうかい}で梨後継者の“やる気”を引き出す！

印旛農業事務所改良普及課
普及指導員 宮沢裕章

梨友会は「会に入れば梨栽培の基礎が身につく」、後継者が安心して就農できるように学習する組織です。同世代の会員同士、刺激し合いながら楽しく活動しています。梨の栽培技術だけでなく、会の運営方法を身に付け、各産地の中心的存在となるよう頑張っています。

1 梨友会の設立

管内では、毎年 2～3 名の梨後継者が就農しています。そんな就農後間もない後継者からの「基礎を勉強する場が欲しい」との声を受け、農業事務所で基礎技術の講習会を開催したのが会の始まりです。

参加者が次第に増加したこともあり、リーダーの若手農業者と普及員が話し合いを重ね、平成 24 年 2 月に「梨友会」が発足しました。

2 活動内容

「梨友会」の基本方針は①梨栽培の基礎技術習得 ②4 年程度で卒業 ③自立した活動 ④会の運営方法を勉強の 4 つを掲げています。技術だけでなく、将来、産地や組織の中心的存在になるため、今から組織運営を学んでいます。そして卒業後は産地の中心的存在の担い手として活躍出来るような人材になることを目指しています。

梨友会の主な活動は梨の栽培技術講習会です。せん定や新梢管理といった重要な管理だけでなく、通常の講習会ではあまり取り上げない摘蕾や摘果なども取り上げ、月 1 回程度の講習会を開催しています。また梨の生理や土壌肥料などの座学や他県への視察研修も行い、知識の充実を図っています。



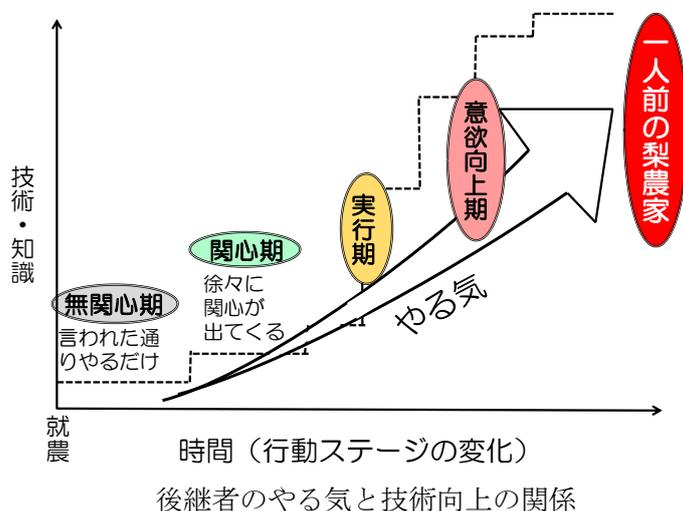
熱心に講習を受ける会員

3 活動の成果

会員は入会 1 年後には全員が年間を通して独力で管理が行えるようになっていきます。数年でベテランと遜色ないほどの技術レベルに向上する会員もいます。

また、意欲的に活動している先輩会員から刺激を受けることで行動ステージが変化し、より活動意欲が向上していきます。そして技術が向上するにつれて自信が生まれ、積極的に発言をしたり、後輩に教えるようになっていきます。

また技術や知識が向上することで、経営参画への意識も向上しています。実際に施肥や防除方法の変更、販売方法の改善をした会員もいます。



4 今後の展望

「梨友会に入れば基礎が身につく」と後継者が安心して就農できる、地域の受け皿としての定着を図ります。そして基礎栽培技術の習得はもちろん、同世代のネットワークを広げ、幅広い視野を持った担い手の育成を目指します。



頑張る産地

「売れる花を作り続けるフルールセゾン」

海匠農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 松若 真由美

旭市の施設切花は、ピンポンマム、ダリア、ガーベラなどがあり、個人出荷農家が80%となっています。その中で任意組合のフルールセゾンは、共選共販組織として平成8年に設立し、構成員 6 名で活動しています。10 月 24 日に、出荷先の市場を招待し、農場見学会と出荷情報交換会を開催しました。全国から花き市場担当者 21 社、22 名が参加し、活発な意見交換が行われ、秋冬作の販売強化を図りました。

1 組織の概要

旭市の施設切花は、45 戸、面積 18ha で、県内でも有数の切花産地です。

フルールセゾンは、市場の大型化に伴い、有利販売を目指し、販売ロットの増大と継続出荷を実現するために共選共販組織として結成されました。構成員は 40~50 歳代の 6 名で、合計施設面積 8000 坪です。平成 25 年度の販売実績は 1.6 億円、出荷本数は 222 万本で、主な品目は、マトリカリア (93 万本)、ピンポンマム (59 万本)、ダリア (31 万本) です。

2 活動の特徴

①出荷規格の統一。結成当初から、市場への事前出荷情報提供に取り組みました。組織の構成員で市場の出荷精算事務をパソコンで行い、販売実績は数値化し、品目選択に活用しています。

②主要品目は、販売先のニーズに対応して、結成当時のデルフィニウムから計画出荷が可能なマトリカリア、現在は物日対応ができるピンポンマムと花持ちが重視されるダリアへと売れる品目への転換を図ってきました。

③国・県の補助事業を活用し、作期拡大への冷房育苗施設の導入や省エネ対策として 2 層カーテン等の整備にいち早く取り組みました。現在も既存施設の再整備と規模拡大、低コスト安定生産につながる技術導入を積極的に行っています。

④平成 15 年から、有志花き生産者と展示商談会「ちば花と緑の生産者紹介」を開催し、市場・販売関者との情報交換をもとに、新たな販路の拡大や新品目の導入を行ってきました。毎年開催され、販路は結成当時の出荷市場 6 社・販売金額 8 千万円から、現在は 30 社・1.6 億円に拡大しています。

3 農場見学会と出荷情報交換会の開催

平成 26 年 10 月 24 日に、販売先の市場を招待し、圃場視察と出荷計画の情報交換会を開催しました。当日は、北海道から兵庫県までの 21 社、22 名の参加がありました。成果としては① 20 代~30 代の担当者が多く、構成員と初めて話す人など世代交代が進み新たな人間関係ができました②年間取引が 500 万円未満の遠方市場も参加し、地方出荷への期待や要望等の貴重な意見がありました。

4 今後の取り組み

代表の小林久夫氏は、「今回の農場見学会で“販売先の要望に柔軟に対応し、売れる花を作る”方針が正しかったことが確認できた。今後は生産性と品質の向上を重点に売上高 2 億円をめざしたい」と語っています。構成員 6 戸のうち 3 戸で後継者が就農しています。海匠農業事務所では、組織販売による経営改善と次世代の育成等の課題について引き続き支援していきます。



10 月 24 日開催 農場見学会



千葉県における野菜畑土壌の実態

千葉県農林総合研究センター
土壌環境研究室 研究員 永沢 朋子

持続的な野菜生産を進めるためには、健全な土壌をはぐくむことが大切です。土づくりを進める上で基本的な情報となる野菜畑、野菜施設の土壌と施肥管理の実態を紹介します。

1. はじめに

農林総合研究センターでは、生産力の維持向上や適正な土壌管理を進めるため、30年以上にわたり土壌と施肥管理の実態と変化を把握する調査を行ってきました。このうち、最近の野菜畑及び野菜施設の実態を紹介します。

2. 調査概要

県内の畑土壌の79%が火山灰を起源とする黒ボク土で、主に県北部の下総台地上に広がっています。また、16%が海や河川により運ばれた土砂が堆積した褐色低地土で、九十九里平野や河川沿いに広がり、3%が海底で堆積した砂岩や泥岩を起源とする褐色森林土で、主に県南部の丘陵地に分布します。(図)。調査は、野菜畑37地点、野菜施設21地点で行いました。平成24年度に、深さ0~15cmの土壌の化学性を分析するとともに、施肥管理に関するアンケートを実施しました。



図 畑土壌の分布

3. 土壌化学性の実態

土壌化学性の平均値を表に示します。pHは6.4~6.5で、多くの品目に対して適正な範囲です。石灰、苦土及び加里の交換性陽イオンは苦土を除いてほぼ適正な範囲にあります。一方、可給態リン酸は過剰傾向です。

黒ボク土はリン酸の固定力が強いので、植物が利用しやすい可給態リン酸が増えにくい土壌です。しかし、野菜畑では黒ボク土で調査地点の2割、黒ボク土以外で4割、野菜施設

では黒ボク土で7割、褐色低地土で9割が過剰でした。このように、野菜畑では黒ボク土以外の土壌、野菜施設では黒ボク土を含めたすべての土壌で可給態リン酸の蓄積が進んでいます。

表 野菜畑及び野菜施設における化学性の平均値

土地利用 土壌	調査 地点数	pH	CEC (me/100g)	交換性陽イオン (mg/100g)			可給態 リン酸 (mg/100g)
				石灰	苦土	加里	
野菜畑							
黒ボク土	24	6.4	35	464	86	81	64
褐色低地土	9	6.5	14	228	29	48	133 ↑
褐色森林土	4	6.5	26	460	179 ↑	155	148 ↑
野菜施設							
黒ボク土	6	6.4	40	540	250 ↑	151	185 ↑
褐色低地土	15	6.5	16	341	93 ↑	77	380 ↑

注) 交換性陽イオン及び可給態リン酸では、診断基準値(「主要農作物施肥基準」千葉県, 2009)と比べて10%以上高いものは数値の右側に↑、低いものは↓を示した。

4. 肥料と堆肥の施用量

窒素、リン酸、加里の施肥量の平均は、野菜畑ではそれぞれ10a当たり14kg、22kg、11kg、野菜施設ではそれぞれ22kg、21kg、19kgです。施肥量は30年前の調査開始当初と比べて大幅に減少していますが、この10年間では大きな変化がありません。

堆肥は、野菜畑では4割の農家が施用しており、その平均は2.2t/10a。野菜施設では5割の農家が施用しており、その平均は1.3t/10aです。この10年間では、野菜畑、野菜施設における堆肥の施用量は1.3tから3.0t/10aの範囲であり、施用農家の割合は5割前後で推移しています。

5. おわりに

野菜畑と野菜施設では、土壌の可給態リン酸が過剰に蓄積する傾向がみられました。肥料とともに堆肥中のリン酸が影響していると考えられます。リン酸の過剰によって生育障害が起こる可能性は低いですが、リン酸は高価であるとともに貴重な資源です。作付け前に土壌診断を行って養分状態を把握し、リン酸が過剰な場合は減肥が望まれます。

第 35 回千葉県フラワーフェスティバル

県内の花き生産者が育てた花々が展示される花の祭典が開催されます。今年は、フラワーアレンジメント千葉県代表によるデモンストラーションが行われるなど、期間中は各種イベントが行われます。

ひと足早い春を、地元“ちばの花”をお楽しみください。



- ・会期 平成 27 年 1 月 9 日 (金)
～12 日 (月・祝) ※12 日は正午まで
- ・会場 千葉三越 8 階催事場
(JR・京成電鉄・千葉モノレール
「千葉駅」から徒歩約 5 分)
- ・内容 花の品評会、フラワーアレンジ教室、
花の即売会など
- ・各イベント問合せ・申込先
千葉三越
電話 043-224-3131 (大代表)
- ・本記事問合せ 県庁農林水産部生産振興課
電話 043-223-2871

千葉県立農業大学校 「庭園の設計と作庭講座」募集

植木生産者や造園業者、本講座に興味のある方を対象に、庭園の設計図の描き方の解説及び設計した小庭園づくりの講座を開催します。

日 時:平成 27 年 2 月 23 日(月)～25 日(水)
(午前 10 時から午後 4 時まで)

場 所:千葉県立農業大学校

講 師:(有)重森庭園設計研究室代表

重森千青 先生

定 員:先着 30 名

(3 日間連続で受講できる方のみ)

受講料:無料

(但し、テキスト「だれにもできるやさしい造園図面の描き方」、傷害保険料等 2,300 円程度実費負担)

申込方法:講座名、氏名、住所、郵便番号、
電話番号、

テキスト希望の有無、所属を記入のうえ、
1 月 19 日 (月) ～ 2 月 13 日(金)の期間に
郵送、FAX 又は持参。

申込先:千葉県立農業大学校農業研修科
(担当 石橋)

〒283-0001 東金市家之子 1059

電話:0475-52-5140 FAX:0475-54-0630